

（あいさつ）

初秋の候、皆様いかがお過ごしでしょうか。

平成二年に始まりました私の八千代座公演も、今年で二十七年目となります。今年は今ままでと全く趣向を変えた新たな試みをお客様にご覧いただくこうと考えております。

私がこれまで務めさせていただいてきた数多くの古典舞踊の中でも、『京鹿子娘道成寺』や『鷺娘』などの舞踊は、お客様から再演のご希望の大変多い作品でございます。しかしながら現在の私には、これらの舞踊を最初から最後まで踊りきるための体力が不足しております。そのためせっかくのご要望にお応えすることができず大変心苦しい気持ちでございました。ただ幸いなことに私のこれまでの舞踊のほとんどは、シネマ歌舞伎やDVD等の優れた映像作品として残されており、この映像を八千代座のスクリーンでご覧いただき、途中でスクリーンが上がって実際に私が舞台でその一部分だけを踊る、これが実現できれば、もうお見せすることが叶わなかった『京鹿子娘道成寺』や『鷺娘』をお客様に実演入りでお楽しみいただくことができる・・・、そう考えました。また、この方法であれば、これまで一日一回公演だったものを昼夜二回公演にも出来ると思います。昼の部で『京鹿子娘道成寺』をご覧いただきながら、途中から私が一人で踊らせていただきます。夜の部では『鷺娘』と荻江節の名曲『稲船』をご覧いただきます。また、昼夜とも最初に『口上』を務めさせていただき、今回の趣向の解説や、それぞれの演目についての私の思いを、あまり格式張らずにお話しさせていただきます。また、そう考えました。また、この方法で

こうして新しい試みを行うことができるのも、長年に亘って慣れ親しんできた八千代座という劇場があり、毎年ご来場いただいているお客様のお蔭である、今改めて感謝の思いでいっばいでございます。少しでも皆様のご愛顧に込えられるよう、精一杯務めさせていただきますので、是非ご来場賜りますようお願い申し上げます。